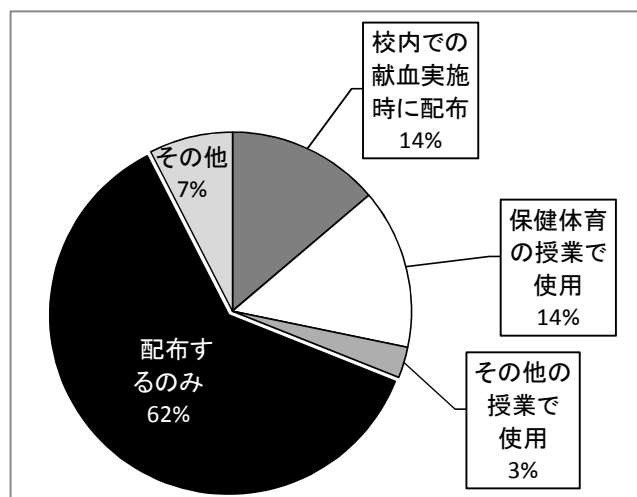


平成27年度「けんけつ HOP STEP JUMP」アンケート調査結果

【調査の基礎情報】

- ・調査の方法：全国の高等学校へ資料を配布する際にアンケート用紙を同封し、資料活用後にアンケートへの回答を依頼した。
- ・調査学校数： 6, 260校
- ・回 答 数： 465校
- ・回 答 率： 7. 4%

1. この資料をどのように利用されていますか。(利用する予定ですか。)



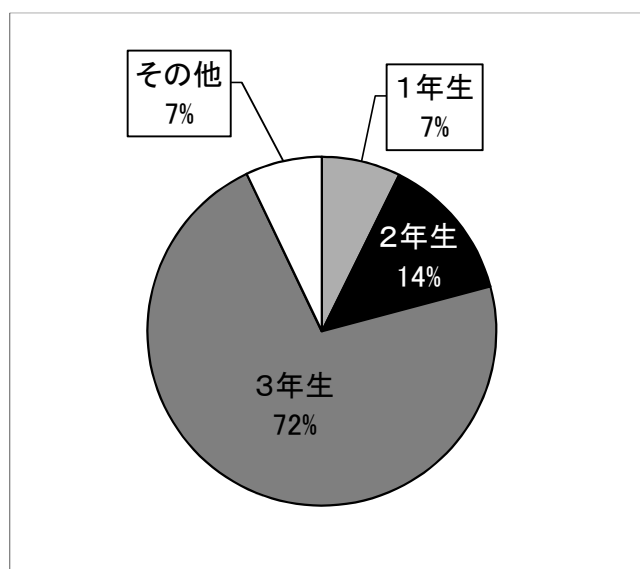
【その他の授業で使用(内訳)】

HR/LHR

【その他(内訳)】

HRで配布・担任から指導/献血講話/
献血の呼び掛け・事前学習時に使用/
学年集会で配布・説明/保健指導/
献血のお願いと一緒に配布/
朝読書の時間に配布し、読んでもらいながら説明/
講演(献血セミナー等)時に配布/
献血セミナーの振り返り教材としての活用/
献血前に配布/配布していない

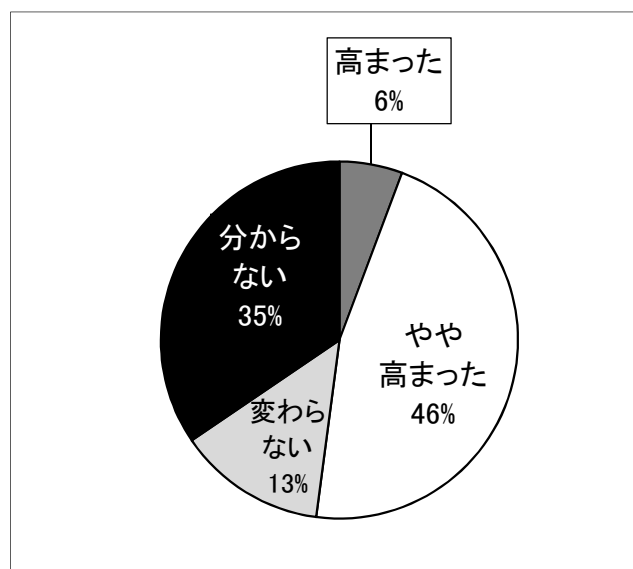
2. 本資料を何年生に配布しましたか。(配布する予定ですか。)



【その他(内訳)】

全学年/1、2年生/2、3年生/1、3年生/3、4年生/4年生
必要に応じて

3. 本資料によって、生徒の献血への関心に変化はありましたか。(あると考えますか。)



4. 本資料の内容について生徒の献血への関心を高めるためのアイデアや改善すべき点(主な意見)

(1) デザインについて

- ・パンフレットの大きさをもう少しコンパクトに。すぐ読めるようイラスト・写真を中心にした方が良い。
- ・冊子も良いが、チラシがあるともう少し手軽に朝のHRで取り上げられるのではないかなと思う。
- ・今の高校生は紙媒体の資料はなかなか読まない。カード形式のものを配布して、それにQRコード等をつけておけば、自分でアクセスして見てくれるかもしれない。
- ・本校は特別支援学校のため、もう少し字を少なくし、絵や図を多くしてくれると分かりやすいと思う。

(2) 内容について

- ・内容はもっと削って良いかなと思う。高校生に特に伝えたいメッセージに重点をおいても良いかと。ページ数が少なく、メッセージ性の多い内容であれば更に関心が高まるのではないかな。
- ・生徒と同年代くらいの子が輸血により回復した、というエピソードなどがあると、生徒も献血することで誰の役に立つのかイメージしやすいと思う。
- ・貧血で献血できない生徒の割合が高いので、献血をするための体作り(貧血対策)等を載せてはどうだろうか。また、高校生に人気のアーティストなどが載っていると、注目するようだ。
- ・「高校生も献血できる」ということを全面に出す。(意外にできない、怖いと思っている。)
- ・LOVE in Action(LIVE)のことも盛り込んで頂けると興味がわくと思う。
- ・病弱特別支援学校のため、生徒の疾患によっては献血の関心の持たせ方に配慮が必要である。
- ・初めて献血する人がほとんどなので、生徒が知っている芸能人や有名人の献血してみても感想も献血を身近に感じられるのでは？
- ・このようなテキストを細かく読ませるより、一目瞭然とアピールした方が良い。献血の安心、安全性の強調、もっと見やすく分かりやすいように図説すると良い。

(3) 他の啓発方法について

- ・SNS等の利用による呼びかけや、LINEのスタンプ作りを行う。
- ・予算があるのであれば、うちわやポケットティッシュ等ではなく、クリアファイルやペン等、生徒たちが普段使用するものを配布した方が良いと思う。
- ・冊子に加えてDVDがあると視覚的にも印象強く、興味はより強まると思う。
- ・冊子にラインスタンプが貰えるアプリが付いている、アクセスするとゲームができる等。
- ・献血ルームのスタッフの方による簡単なキャンペーンなどが生徒・職員向けにあれば周知がされると思う。または養護教諭の研究会での講義など。
- ・クリアファイルを配布した方が、見る時間が長いと思う。

(4) その他

- ・配るだけでは何も変わらない。授業での活用例など分かりやすく示していただきたい。
- ・献血そのものへの関心の薄さがある。教員の献血についての話し方で意識が変わる。教員向けの働きかけが必要に思う。
- ・本校は学園祭にも献血車に来て頂き協力しているが、なかなか数が増えないのが現状。配布を3、4年生に絞ったのは選挙権とセットで大人へのステップとして指導していけたらと思っている。とりあえずは配布だけであるが、色々な場面で指導を入れる。
- ・平成27年度から学校行事の一環で献血を行っている。資料の提供や説明だけでなく、教育活動の中に献血推進につながる仕組みを作ることが関心を高めることになると思う。